

令和6年度研究推進計画

1 研究主題

主体的に学び続ける児童の育成
～子どもの「したい」「考えたい」を大切に活動を通して～

2 研究主題設定の理由

本校では、令和2年度から個別最適な学び実証研究事業の取組が始まり、イェナプラン教育の理念を取り入れ、学校生活の教育活動を通じて主体的に学ぶ児童の育成に努めてきた。単元内自由進度学習や異学年集団による協働学習により、児童が自分のペースや理解度に応じて学習をすすめたり、学年の枠を超えて児童同士が学んだり関わったりする姿も4年目を経て、すっかり本校の学習スタイルになりつつある。

昨年度は、国語科や算数科だけではなく理科や社会科でも実施したり、2～3の教科を組み合わせで学習計画を立てたり、学習計画表を自分で作ったりする自由進度学習を実施した学年もある。また年度当初に、「学習計画表」「学習環境」「個への支援」の3点を重点として全学年で取り組むこととした。それぞれの実態に合った「学習計画表」や、意図的に計画表とセットした「学習環境」を組み合わせるなど、創意工夫をしたり、あるいはみんなで知恵を出し合ったりしながら取り組むことができた。

2月に実施した児童アンケートでは、自由進度学習を行った国語科や算数科の学習において、「自ら進んで取り組んでいる」「自分のペースで取り組んでいる」「わかりやすい」「今後も続けたい」と答えた児童は、9割を超えた。その理由として、「計画表に書いてある、自分の立てた進度に合わせてできるから。」「今日の時間は何をするか決めていたので、すぐに授業に入れたから。」「今どこまでやったとか、どこまで終わらせればいいのかすぐわかるから。」「自分のわかりやすい学び方やノートのまとめ方ができていたから。」「ヒントを見たり、わからないときは友達にきいたりしたから」「友達と考えながら意見を話し合える。」などが挙げられた。そこから、学習の見通しをもち、自分なりの計画を立て、自分のペースや理解度に応じて、わかりやすい学び方を選び、自分から友達と学び合いをする児童の学びの姿が見えてきた。

江田島市が実施した学習調査の結果においては、全国平均が昨年度を上回った学年は、国語科で4つ、算数科で5つ、理科で3つの学年だった。自由進度学習や異学年集団による協働学習を取り入れ、児童に応じた手立てを工夫することは、主体的に学び、学力を向上させることにほぼ有効であった。また、9割の児童が生活科や総合的な学習の時間に「自分から進んで取り組むことができた」、「他の学年の友達と協力して取り組むことができた」と答えている。

しかし、学習内容によってはつきたい力をつけるための学習方法や学習形態、発達段階によっては学習の仕方を身に付けさせることが大切であり、児童の実態に応じながら学習内容に合わせて単元内自由進度を取り入れていく必要がある。さらに、低学年においても異学年集団での学びを内容に応じて設定していく必要がある。

また、1年間の取組の振り返りから、以下の課題や考えていきたいことが新たに生まれた。

- ・ 三高小の児童につきたい学力とは何か、めざす子どもの具体的な姿の共通理解
- ・ 自由進度学習の学びを成立させるための教室環境や学習のルール等について
- ・ 一人でなかなか学びを進められない児童に対しての個への支援のあり方
- ・ 児童に自己調整力をつける学びの振り返りのあり方

そこで、引き続き、研究主題を「主体的に学び続ける児童の育成」とし、サブテーマを「子どもの『したい』『考えたい』を大切に活動を通して」として、「単元内自由進度学習」、「異学年集団による協働的な学習」を進め、工夫し積み上げていくことが、「自立して学ぶ力」を身に付け、他者と協働して学ぶことができる児童を育てるために必要だと考える。

3 研究仮説

子どもの「したい」「考えたい」を大切に活動をし、次のような点から行えば、自己調整力を身に付け、主体的に学び続ける児童を育成することができるであろう。

- ・ 「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり（単元内自由進度学習）
- ・ 他者と協働し、探究的に学ぶ単元づくり（異学年集団による協働的な学習）

4 研究の基本的な考え方（三高小の児童につけたい学力についての考え方）

文部科学省での学力の定義をもとに、本校では**学力**=**学び方**ととらえ、以下のように考えている。

学力（文部科学省）（子どもたちに求められる学力＝確かな学力）
知識・技能 + 学ぶ意欲、自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質・能力



学ぶ力（三高小での考え方）

- ★学ぶ意欲、興味関心、問題意識がある
- ★今、自分が何を学ぶかが分かる
- ★どうやって学んだらいいかを知っている
- ★そのためにかかる時間やすることを見積もれる
- ★いろいろな学び方のうち、どれが適切か選択できる

※本校での学力のとらえについては、年度初めに協議の予定

5 研究内容

（1）「自立して学ぶ力」を身に付ける授業づくり（単元内自由進度学習で）

- ・ 個に応じて学習課題・学習形態・学習方法等を選択できる学習（自己決定・自己選択）
- ・ 児童自らが、学習計画表をもとに進める学習
- ・ 個のつまずきや進捗、個々の学び方に応じた支援
- ・ 単元内で付けさせたい学習内容に合った学習環境や学習ルールづくり
- ・ 自己調整力をつけるふり返りのあり方や工夫

（2）他者と協働し、探究的に学ぶ単元づくり（主に異学年集団による協働的な学習で）

- ・ 総合的な学習の時間を中心とした異学年集団による学習
- ・ 地域のよさをテーマにした、体験活動を伴う課題の設定
- ・ 児童どうしが関わり合いながらの、探究的な思考過程を大切に学習づくり

6 検証計画

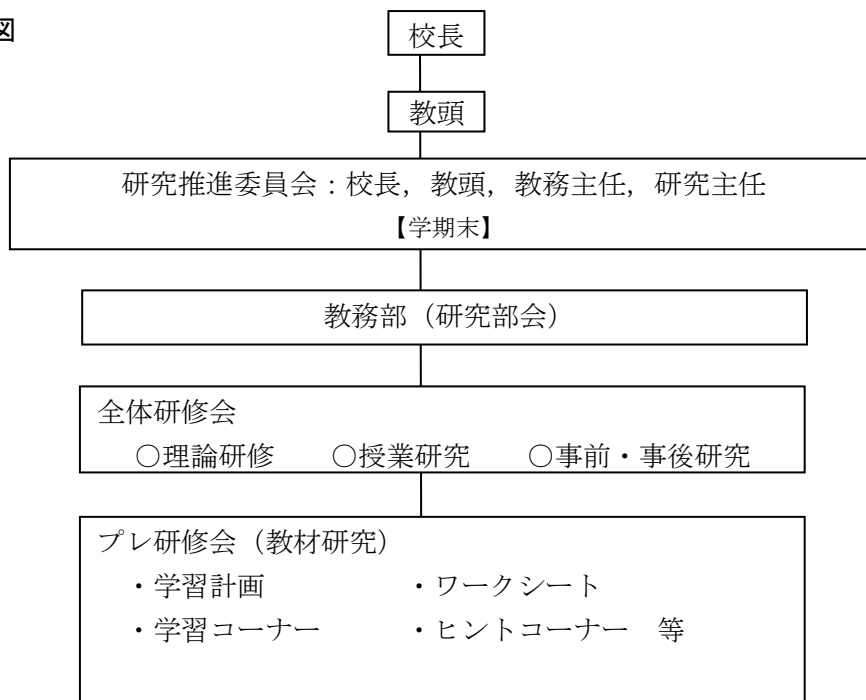
（1）検証方法

- ◎ 児童・教師アンケート
- ◎ 児童のノート及びポートフォリオ
- 江田島市学力調査

（2）検証の指標

- ◎ 児童の学びアンケートにおける肯定的回答 90%以上（学習への主体性・計画性・理解度等の項目で）
- 江田島市実施の学力調査において、全国平均と同等または上回る

7 研究組織図



8 校内研修計画（原則として毎月第4木曜日 15:10～，部会研修等：随時）

月	日	研修形式	内 容	講師招聘
4		○全体研修	・学校研究主題・研究推進計画について ・理論研修（今年度の方向性について）	
5		○理論研修	・理論研修 （取り組みの重点についての共通理解）	
		○プレ研修	・校内授業研究① 教材研究	
		○全体研修	・校内授業研究① 指導案検討	
6		○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究① 校内授業研究	広島県教育委員会指導主事
7		○プレ研修	・校内授業研究②③ 教材研究 （2学期実施分）	広島県教育委員会指導主事
8		○全体研修	・校内授業研究②③ 指導案検討	
9		○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究②	広島県教育委員会指導主事
10		○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究③	広島県教育委員会指導主事
12		○プレ研修	・校内授業研究②③ 教材研究 （3学期実施分）	
		○全体研修	・校内授業研究④ 指導案検討	
1		○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究④	広島県教育委員会指導主事
2		○全体研修	・江田島市学力調査結果の分析 ・年間のまとめ （今年度の研究推進の成果と課題）	

※ 本年度は、県の教職員の研修での授業公開あり。その時期により、日程変更あり。

（1学級または2学級の公開授業の予定）

※ 指導案検討の前に、プレ研修（教材研究）を実施し、下記のことについて意見交流を行う。

- ・ 学習環境（学習計画表を含む）
- ・ 個への支援等

9 研究構想図
(別紙参照)

8 校内研修経過

月	日	研修形式	内 容	講師招聘
4	8	○全体研修 ○理論研修	・学校研究主題・研究推進計画について ・理論研修（今年度の研究推進について）	
5	19	○全体研修	・指導案検討（5,6年：算数）	
6	15	○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究1（5,6年：算数）	広島県教育委員会 西部教育事務所 江田島市教育委員会
7	26	○全体研修	・ノート研修（児童ノートからの見取り）	
8	22	○ブロック研修 ○全体研修	・指導案検討（3,4年：国語） ・指導案検討（1年：算数）	
9	28	○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究2（3,4年：国語）	広島県教育委員会 西部教育事務所 江田島市教育委員会
11	17	○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究3（1年：算数）	広島県教育委員会 西部教育事務所 江田島市教育委員会
12	26	○全体研修	・ノート研修（児童ノートからの見取り） ・指導案検討（2年：国語）	
1	24	○全体研修 授業研究・協議会	・校内授業研究4（2年：国語）	広島県教育委員会 西部教育事務所 江田島市教育委員会
2	16	○全体研修	・江田島市学力調査結果の分析 ・年間のまとめ （今年度の研究推進の成果と課題）	